

事業コード	H26-建-継-01		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	1次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主) 神岡南外東由利線		担当課長名	柴田 公博
箇所名	大仙市南外下袋		担当者名	田森 清美
総合計画との関連	政策コード	03	政 策 名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施 策 名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	03	施策目標(指標)名	地域間ネットワークの構築

1. 事業の概要

事業期間	H22 ~ H30 ( 9 年)		総事業費	15.0億円	国庫補助率	7/10
事業規模	○延長L=3, 200m 幅員W=6.0(8.5)m (1.25+6.0+1.25)					
事業の立案に至る背景	○当該路線は、大仙市を起点とし由利本荘市に至る幹線道路であり、県南内陸部の地域間交流を支える主要な道路である。当該区間は、沿線集落を結ぶ重要な道路で、バス路線、通学路指定路線になっている。しかし、幅員狭小(最小幅員W=4.0m)で急カーブ(曲線半径R=100m未満)が多数あり歩道も無いため、歩行者の安全確保や大型車の通行に支障をきたしている。また、冬期は路肩堆雪による道路空間の減少により、歩行者の通行や車両相互のすれ違いが困難となっている。このため、平成20年度から実施している県営ほ場整備事業と一体的に整備し、幹線道路としての広域的な機能と、生活道路としての安全性を早急に確保するため、道路整備を進めるものである。					
事業目的	○大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくり支援) ○通学路における児童の安全確保(安全な生活環境の確保) ○第二次緊急輸送道路としての機能確保(防災、危機管理の充実)					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,050,000	1,500,000	450,000	
	経費内訳	工事費	675,000	1,142,034	467,034	
		用補費	248,000	250,641	2,641	
		その他	127,000	107,325	-19,675	
	財源内訳	国庫補助	735,000	1,050,000	315,000	
		県 債	299,200	405,000	105,800	
その他		0	0	0		
一般財源		15,800	45,000	29,200		
事業内容		調査・設計改良工、舗装工	調査・設計改良工、舗装工		○軟弱地盤対策の増工による。	
事業の進捗状況	○平成25年度末で事業進捗率46%である(用地進捗率95%)。					
事業推進上の課題	○特になし。					
関連する計画等	○第2期ふるさと秋田元気創造プラン「生活道路の機能強化」 ○楢岡川(西の又川) 県単河川改良事業(H20~H30)					
情勢の変化及び長期継続の理由	○幅員狭小、線形不良で歩道がないため、大型車の通行や児童が通学する際、危険な状態が続いている。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	県道改良率				
	指 標 式	改良済延長/路線実延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	72.3 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実績値 b	72.5 %				
達成率 b/a	100.3 %		把握の時期	平成26年4月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特に無し。
	②指摘事項への対応 特に無し。

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○バス路線、通学路指定路線 (南外中学校) であるが、幅員狭小 (最小幅員W=4.0 m) で急カーブ (曲線半径R=100m未満) が多数あり、歩道もないため歩行者の安全確保や大型車の通行に支障をきたしている。また、冬期は路肩堆雪による道路空間の減少により、人対車両、車両相互のすれ違いが困難となっている。	10点
緊 急 性	○老朽橋対策による落合橋 (S45架設) の架け替えが必要であり、県単河川改良事業: 楯岡川 (西の又川) H20~H30と一体的に整備することで、早期解消を図る。	15点
有 効 性	○二次生活圏である大仙市中心部までの生活圏30分形成道路である。 ○第二次緊急輸送道路であり、地域防災計画上で重要な道路となっている。	30点
効 率 性	○事業の費用便益費は1.5である。 総費用の現在価値 17億円    総便益の現在価値 25億円 ○計画交通量2,000~3,100台/日 (H42) となっている。	13点
熟 度	○事業は計画通り進捗しており、平成26年度末で事業進捗率50%に達する見込みである (用地進捗率100%)	15点
判 定	ランク ( ● I    ○ II    ○ III )	83点
	優先度は高く、事業は引き続き実施するべきである。	
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
 適用基準名 道路改築事業（地域内・生活圏交通促進）

事業コード ( H26-建-継-01 )  
 箇所名 ( 大仙市南外下袋 )

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題	道路構造上の欠陥箇所数					
		・車道幅員<5.5m	3箇所以上	8	8	・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>5% ・冬期堆雪巾なし 計 3箇所	
		・最小半径<100m	2箇所	6			
		・最急勾配>5%	1箇所	4			
		・冬期堆雪巾なし	0箇所	0			
		道路環境上の欠陥該当項目				2	・通学路指定で歩道なし 計 1件
		・現道の混雑度≥1.0	5件該当	7			
		・現道の旅行速度≤30km/h	4件該当	6			
		・現道の事故率≥50件	3件該当	5			
		・通学路指定で歩道なし	2件該当	4			
・重大交通事故が発生	1件該当	2					
計	該当項目なし	0	15	10			
緊急性	道路をとりまく環境等	関連事業の有無					
		・県の主要プロジェクト	あり	5	5	第2期ふるさと元気秋田創造プラン「生活道路の機能強化」 県単河川改良事業（楢岡川）	
		・地域振興プロジェクト	なし	0			
		・ほ場整備等の他事業	なし	0			
		市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5	老朽橋の落合橋の架け替えが必要	
			位置づけなし	0			
緊急度の高い課題の有無	あり	5	5				
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0					
計			15	15			
有効性	道路の位置づけ	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7		
			該当しない	0			
		救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7		
			該当しない	0			
		地域防災計画上重要な道路	該当する	7	7		
			該当しない	0			
		社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9	幅員狭小で急カーブが多数あり、歩道も無いため歩行者の安全確保等に支障あり	
	低下傾向	6					
	必要性が低い	3					
計			30	30			
効率性	事業の投資効果等	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	B/C=1.5	
			1.0未満	0			
		計画交通量	5,000台/日以上	5	3	2,000~3,100台/日	
			1,000台/日以上~5,000台日/未満	3			
			1000台日/未満	0			
		コスト削減	あり	5	0		
			なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5				
	既投資額の部分的損失	4					
	既投資額の損失が少ない	3					
計			20	13			
熟度	事業の進捗状況	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	5	進捗率46%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
			未着手	0			
		用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	進捗率95%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
			未着手	0			
計			20	15			
合計				100	83		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		